



ヨゼフ・アベイヤ司教認可 発行所 福岡司教区本部 福岡市中央区浄水通6-28 発行人 カトリック福岡司教区 編集人 浦川 川 川 TEL 092-522-4059 FAX 092-523-2152 振替口座 01760-6-20729 カトリック福岡司教区 定価 1部70円

6月の意向

【教皇の意向】スポーツの価値 【日本の教会】教皇

振り返りから将来の力へ

100周年の歩みの2年目を振り返って

ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）



教区100周年ロゴマーク

教会というテーマです。特に、青少年の宣教を充実させ、外国から来られた信徒との交わりを深めることを目指しています。

子どもの信仰教育

子どもたちの信仰教育の充実を目指した、教会学校のリーダーたちの奉仕は素晴らしいことです。

振り返りの大切さ

昨年の7月の教区報に、教区創立100周年の2年目を始める前に、各小教区で1年目の歩みを振り返るよう呼びかけました。

同時に、2年目のテーマに取り組みようと呼びかけました。教区の宣教司牧方針の三つの柱のうちの一つの柱になっている「未来に開かれた

1年間の歩みを振り返って感じていること

私自身が1年間を振り返って、まず感じるのは感謝です。

青年たちとともに

青年たちの活動を支援することは教区の宣教司牧方針で示されている大事な指針です。

福岡教区創立100周年に向けて

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう 2027年7月16日まで あと13ヶ月 2025年7月～2026年6月 テーマ：未来に開かれた教会となる

教区創立100周年記念 教区報紙面投稿募集!

文章は400字程度を目安に募集しています。短い一言メッセージや、写真・イラスト+ひとこと、ちょっとした思い出話(100字～200字程度)でも大歓迎です。

第2回募集期間 9月30日(水)まで

テーマ: 1. 私の信仰生活ストーリー 2. 私の誇りの仕事・奉仕 3. 100年の中の10年の私 4. 教区や教会の名物(人・場所・イベント・食べ物など何でも)

応募先 E-mail: cdf-kouhou@nifty.com (郵送) 福岡市中央区浄水通6-28 司教館 広報部

2年前に、創設された「カタラント」という教区青年センターの活動も大事にしたいと思っています。青年たちの要請に応じてつくられたセンターです。自分たちが集える場として、また、

外国から来られている信徒は福岡教区にとって神様からの贈り物です。この兄弟姉妹の信仰の証は私たちに励まします。恵みです。ただ、そのために「ともに歩む」ことは大切で、皆さんの小教区や地区で、この兄弟姉妹たちとのつながりをどのように体験しているのでしょうか。中には難しい課題にぶつかっている方もいます。無関心でいられないはず。問題を抱えている人を助けるために、教区、地区、小教区の働きが必要です。

小郡司牧センターは、以前は聖クララ会修道院でした。しばらく閉鎖されていましたが、3月から改修工事が始まり、2カ月の工事を経て完成しました。



約110人が参加した祝福式

小郡司牧センター祝福式 祈りの遺産を受け継ぐ 「みんなの家」の新しい始まり

ア・パウロ司教区長が、小郡・鳥栖・基山教会共同代表者として参加されました。小郡司牧センターの開設は、この家にとって新しい信仰生活の始まり、新しい未来を示す大切な節目です。

祝福式の中で司教は、「信仰の遺産を受け継がれ、今の時代に合った新しい使命のための場所となることを嬉しく思います」と話されました。そのため、この家は聖ビンセント宣教会の神父たちに託されました。

最近の世界の動きに深い混乱を感じずにはいられない。米国のヘグセス国防長官の「この戦争に神の祝福を」との発言もその一つだ。教皇レオ14世は「神はいかなる戦争をも祝福されない」と明確に否定された。しかし、自身を敬虔なカトリック教徒とする同長官や政権幹部は、逆に「教皇は教義を語る際、慎重になるべきだ」と苦言を呈したという。言うまでもなく、教義に対する絶対的な解釈権限(教導権)は教皇にある。同氏の言葉は、キリストの教えから逸脱しているのではないのか。このような考えに至るのは、キリストを「良き牧者」とする教会共同体の在り方を見失っているからかもしれない。本来、弱い羊は牧者に従うことで安息を得る。互いの弱さを認め、補い合うのが私たちの共同体だ。だが、自己の欲望や主張を優先する羊もいる。彼らは、真の牧者ではなく自らの望みを投影した偽りの偶像を作り上げ、それが神の意志であると錯覚する。それは結果として共同体全体を傷つけ、世界に不要な分断をもたらす。今、私たちがなすべきことは、自分に都合の良いキリスト像を手放すことだろう。そして、教会共同体や他者の存在を通して語りかけてくださる、真の牧者の声に静かに耳を傾けたい。使徒ペトロが「悔い改めなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受け取ります」(使徒言行録2章38節)と呼びかけ、「邪悪なこの時代から救われなさい」(同40節)と勧めたように、今こそ、真の声を正しく聞き分ける謙虚な姿勢と、柔らかな識別力が何よりも求められているのではないだろうか。(J)

時の話題

水俣病と向き合う

この4月に八代教会との兼任で水俣教会に着任されたフェルッチョ・ブランビッラスカ神父様(ミラノ外国宣教会)から水俣病のことを知りたいと言われ、水俣病に関する場所を案内することになりました。まず、チツソ株式会社(当時日本窒素肥料株式会社)が水銀の入ったヘドロを流していた百閒排水口、市立水俣病資料館、環境省水俣病情報センター、慰霊の碑、相思社の水俣病歴史考証館と2時間半程かけて回りまし

た。晴れ渡った天気の良い日は海は青く、天草や鹿児島島の島々は緑豊かで、多くの苦しみを忘れ去ったかのように見えました。今年チツソの附属病院から水俣保健所に病気の届け出があった公式確認の日から70年になります。水俣病はチツソが海に流していた水銀が魚の体内に入り、その魚を食べたことが原因の病気です。「奇病」とか「伝染病」などと言われて嫌がらせや差別があり、水俣市を二分する感情的な問題もありました。そのよ



### 第1回福岡教区司祭評議会 結婚講座の在り方から100周年準備まで

2026年度第1回司祭評議会が開催され、結婚講座の在り方、教区創立100周年準備、青年大会、WYD（世界青年の日）関連企画などについて協議が行われた。

冒頭では、各地区の結婚講座の現状が報告された。多くの地区で結婚式自体の減少や若者不足が課題である一方、熊本地区では信徒協力による体系的な講座が継続され、未婚者からも好意的な感想が寄せられたことが紹介された。また、ベトナム人信徒向け講座では、対面とオンラインを併用しながら継続的に実施している現状が報告された。協議では、結婚講座に携わる信徒夫婦の減少や、既に同棲・入籍しているカップルへの対応などが議題となり、アベイヤ司教は「まず温かく迎えること」が重要であり、信徒を信頼し支えながら、結婚講座への協力者養成を進めてほしいと呼びかけた。また、各地区に対し、結婚講座の在り方を改めて見直すよう求めた。

福岡教区青年大会については、2026年11月21日から23日にかけて、韓国・仁川教区の青年40人を招き、福岡地区各小教区でホームステイ受け入れを検討する計画が説明された。

主日ミサの意向の扱いについても意見交換が行われた。協議の結果、主日のミサ意向は継続し、読み上げ方法については各小教区の判断に委ねることが確認された。アベイヤ司教は、今後、ミサ意向に関する文書を作成し、司祭団へ通知する予定である。

教区創立100周年関連では、7月以降の年間テーマを「出向いて行く教会となる」とすることが発表された。また、記念誌の準備状況や、各教会紹介動画（ネット巡礼企画）、100周年専用ホームページ新設の進捗が報告された。100周年ミサについては、準備チームの設置、聖歌隊編成、会場整備などを進

### 出向いて行く教会となるために

#### ①洗礼と堅信——「終着点」から「宣教への門出」へ

シノドス第16回通常総会最終文書『シノドス流の教会』の66項に、次のように記されています。「宣教は、洗礼を受けたすべての人を巻き込みます。信徒の第一の任務は、福音の精神を世俗の現実に浸透させ、それを革新させることです（『教会憲章』31、33、『信徒使徒職に関する教令』5～7参照）」

この宣言の土台にあるのは、キリスト者が洗礼によってキリストと一致しているという第二バチカン公会議の視点です。これによって、信徒の宣教責任が洗礼と堅信に根ざしたものであることが明確に示されたのです。しかし、洗礼と堅信の司牧実践を見ると、この秘跡の捉え方に再考の余地があります。例えば、受洗を一種の「上がり」や「終着点」と考えてはいないでしょうか。本来、洗礼はキリスト者として生きる「始まり」です。誕生が成長のスタートであるように、洗礼もまた、福音を体現し続けていく一生の歩みの門出です。

堅信についても同様です。いまだに「中学生の慣習」とか「親の義務」といった意識が根強くあり、秘跡の重みが正しく把握されていません。堅信は形だけの儀式ではなく、聖霊の力を授かり、社会へ送り出されるための新たな門出です。

また、新入信者が教会の手伝いという「見習い期間」をこなすだけで満足してしまう傾向も見受けられます。教会共同体の一員になることは「ゴール」ではなく、キリストに従う使命を生き抜く「資格」を得ることです。

受洗者が抱く「達成感」を、いかにして「使命感」へと昇華させるか。それこそが、第二バチカン公会議以来の諸文書が促している、入信の秘跡についての根本的な理解です。私たちは今一度、秘跡を「受け取って終わり」にするのではなく、宣教へと向かう出発点として捉え直さなければなりません。

宣教・養成委員会 レナト・フィリピーニ神父（聖ザベリオ宣教会）

めるほか、貸し切りバス費用の一部を教区が負担する方針も示された。

さらに、今年の教区主催の平和旬間の準備状況、2029年日本カトリック障害者連絡協議会福岡全国大会に向けた実行委員会の立ち上げ、旧カトリック神学院の利活用献金について、福岡カトリックの教区直轄化、WYD広報活動、九州青年キャンプ計画なども報告された。

各地区報告では、「司祭不在時の主日の集会祭儀」の活用推進や、集会祭儀司会者研修、小教区紹介動画作成支援の必要性などが共有された。最後にアベイヤ司教より、幼稚園・保育園・認定こども園におけるチャプレン制度開始について説明があり、福音宣教の一環として園児・保護者・教職員への司牧的関わりを呼びかけられた。また教区創立100周年企画として、2027年4月17日（土）、若松英輔氏（カトリック文筆家・批評家）による一般向け講演会開催予定が報告された。

### 福岡教区青少年委員会 仁川教区の青年を迎えるために

4月26日、小倉教会で青年15人、司祭5人が集まり、2026年11月21・23日に予定されている第2回福岡教区青年大会の準備会を行った。各地区では、新しい体制や役員を選出し、新しい体制で今年度を始め、各地区から代表の青年とベトナム人グループが集まり、プログラムを話し合った。まず、福岡教区の青年が昨年11月に仁川教区を訪問した時の体験を

訪日する韓国人青年たちには、茶道などの日本文化や教区内の小教区訪問、また教区創立100周年に当たり教区の歴史について学んでほしいなどの意見交換がなされた。

今回来日する仁川教区からの青年は約40人。この40人は11月21日に来日し、その日は福岡教区の家庭で2人1組になりホームステイをする予定である。ホームステイの中で、日本の家庭や日本の教会、信者生活を体験してもらう。そのため、ホームステイを受け



### 佐賀地区宣教司牧評議会主催 信徒研修会 互いに支え合い出向いて行く教会となるために

5月10日、佐賀教会で佐賀地区宣教司牧評議会主催の信徒研修会が行われた。佐賀県内各地から、老若男女に加え外国の方も含む約80人が参加した。講師には昨年に引き続きヨゼフ・アベイヤ司教をお招きし、「福岡教区創立100周年に向けての講話と分かち合い」を行った。

1年目は互いに支え合う教会を目指し、2年目

熱がこもる分かち合いのとき

5月19日誤嚥性肺炎のため帰天。享年90。1935年9月28日長崎県平戸市生まれ（田平教会出身）。1961年5月カナダ・モントリオールで司祭叙階。1964年〜1989年福岡サン・スルピス大神学院にて教授・院長を歴任。1989年6月大崎教会主任。1992年5月お告げのマリア修道会付司祭、長崎純心大学・大学院教授、長崎大学講師を歴任。2019年12月引退。

山内神父が90年の生涯を終え帰天された。かつてサン・スルピス司祭にも属していたので25年間、福岡のサン・スルピス大神学院で司祭養成に尽力された。そのうちの10年

分かつ合いでは、人を誘うことの難しさや日本の社会で求められる活動について議論した。また、教会の活動が個人の生活に与える影響についても活発に意見が交わされ、互いの課題を共有することができた。

佐賀地区は、福岡教区創立100周年を迎えるに当たり、互いに支え合い、未来に向かって出向いて行く教会となることを目指している。各教会の状況に応じた取り組みを提案し、共有することで、青少年や外国人との交流を深め、未来の教会づくりに貢献したい。今回の研修で得た気づきを各共同体に持ち帰り、日々の祈りと奉仕の中で具体的な一歩として実践していく。

多久教会 中村信敏

### 「ヨブ記」から広がる新たな絆と、福音を伝える情熱

復活祭の喜びの旧院創進合祭中、4月29日、カトリック福岡教区念日、100周年分記「ヨブ記」の場感謝ミサが行われた。2月の上演から約2カ月、27人が再会を喜び、共に分かち合い、親睦の時を過ごした。

まず、ヨゼフ・アベイヤ司教様を主司式に、大山悟神父様（老司教会管理者、サン・スルピス司祭会）と桑原篤史神父様（笹丘教会助任・聖アウグスチノ修道会）の共同司式により感謝ミサが捧げられた。大山神父様は説教で、劇の題材となったヨブ記に触れ「苦難のなかでも注がれる神様の寛大さは私たちの生きる力」と語り、どんな時も神様は共におられるという信仰を再確認した。



生演奏で「あめのきさき」を歌う参加者たち

続く分かち合いでは、参加者が教会の悩みなどを率直に語り合った。「皆が話を聴いてくれる場を求めている」という声に、交わりの大切さを痛感した。懇親会では生演奏により、「希望の巡礼者」や多言語での「あめのきさき」が歌われ、教会の多様性と一致を象徴するひと時となった。

最後にアベイヤ司教様は「福音宣教には情熱が必要」と力説し、イエス様に出会った時の熱意を一人ひとりが思い起こすよう呼びかけられた。劇を通して得た仲間との強い情熱を合わせ、新たなチャレンジに向けて絆の輪を広げていきたい。南粕屋教会 平井星子

### 計報

#### ミカエル 山内清海神父

（長崎大神学院司祭）



5月9日、老衰のため帰天。享年96。誓願生活77年。

三枝 サエコ 修道女  
（シスター会伊万里の聖母修道院）

株式会社サンフリース ド・ロさま麺工場  
長崎市西出津町2528-1  
TEL(0959)23-0610  
FAX(0959)23-0611

右記URLからご注文できます

「QRコード」という名称はデンソーウェブの登録商標です。

年間目標 『未来に開かれた教会』となる

修道院の週末 2026  
—来て、見て、体験しよう—

聖ベネディクトの戒律を生きるシトー会の修道生活に関心のある方、観想生活への召命を感じている方のために、「修道院の週末」が開催されます。週末を修道院のゲストハウスで過ごしなが、共同の祈りへの参加と労働、ミニレクチャー、分かち合いを通して、「祈り、働く」（聖ベネディクトの戒律のモットー）修道生活のエッセンスを体験していただくプログラムです。

【日時】2026年10月9日(金)～10月12日(月)  
【場所】シトー会伊万里の聖母修道院  
〒848-0032  
佐賀県伊万里市二里町大里甲1-41

【参加条件】25歳以上45歳未満の独身女性。  
真摯に神を探していること。  
カトリック信者か否かは問いません。

【参加人数】4人まで。参加者が4人になり次第受付を終了いたします。

【参加費】無料(宿泊・食事を含みます)。  
※修道院までの交通費はご負担ください。

【問合せ先】  
E-mail: deo GRATIAS@imari-trappistines.org

「教区社会福音化委員会」名称変更のお知らせ

2026年4月、日本カトリック司教協議会の組織変更により、社会司教委員会のもとにあったすべてのセクション(正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、部落差別人権委員会、子どもと女性の権利擁護部門、HIV/AIDS部門)を統合して1つの委員会を設立し、その名称を「いのち・平和・人権委員会」(Committee for Life, Peace and Human Rights)と変更されましたので、福岡教区組織の5つの委員会のうちのひとつである社会福音化委員会を

「いのち・平和・人権委員会」と改称いたします。



詳細は上記QRコードよりご覧ください。

福岡教区ハンドブック 2026 発行

「福岡教区ハンドブック 2026」は順次発送を開始いたしました。各小教区でお受け取りの上、ご活用ください。

スマホやPC用に、PDFによる配布も行っています。詳細は各小教区にお知らせを配布しておりますので、ご覧の上お申し付けください。

北九州地区・社会福音化委員会  
平和学習講演会のご案内

「壊れつつある世界の中で」  
～日本は、そして私たちは今～

【講師】松浦悟郎司教(カトリック名古屋教区)  
【日時】7月25日(土) 13:30～16:00  
(開場 13:00)

【場所】小倉教会 聖堂

【参加費】無料

【主催】北九州地区社会福音化委員会

【問合せ先】☎090・9583・2806 高瀬



詳細は上記QRコードよりご覧ください。

— 召命を共に祈る会 —

福岡地区 6月16日(火) 13時30分～大名町教会  
ミサ 司式: O.ベルナルド神父(古賀教会)  
【問合せ先】☎090・6422・2257(山口)

北九州地区 6月13日(土) 14時～小倉教会  
ミサ 司式: キム・ジョンゲン神父(門司教会)  
【問合せ先】☎0949・24・9905(藤井)

熊本地区 6月27日(土) 9時～手取教会  
ミサ 司式: 牧山美好神父(手取教会)  
【問合せ先】☎096・369・8896(松上)

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報6月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス  
https://fukuoka.catholic.jp  
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板 会合と催し

6月のこよみ

2026 日本カトリック平和旬間 賛同企画  
8月11日(火・祝) 福岡教区主催「2026 平和を祈る集い」  
テーマ: 平和の時 武力によらない平和を目指して

今年も「平和を祈る集い」では、「平和」をテーマに絵画、俳句、川柳、短歌、小教区単位での制作物を募集いたします。作品は当日、大名町教会講堂もしくはロビーに掲示します。  
(応募締め切り 2026年7月31日(金))

【応募先】  
①郵送 〒810-0028 福岡市中央区浄水通6-28  
教区本部事務局「平和を祈る集い 作品受付窓口」  
②Eメール cdf-kouhou@nifty.com  
送信時件名「平和を祈る集い 作品応募」

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」(詩編25・14)

日時: 6月11日(木) 10時～15時  
内容: エレミヤ: 神と格闘する預言者  
「主よ、あなたに惑わされました」  
7月9日(木) 10時～15時  
内容: エステル: 民のために立つ人  
「わたしのために祈ってください」

問い合わせ先: 真命山諸宗教対話センター  
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186  
熊本県玉名郡和水町疇浦1391-7  
E-mail shinmeizan@gmail.com  
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

- 【6月】  
2日(火) 宗教法人幼稚園 園長会と理事会  
3日(水) 司教団財務委員会  
4日(木) 福岡教区青少年委員会(大名町教会)  
5日(金) 聖心のウルスラ幼稚園・講話  
6日(土) 馬渡島・呼子教会司牧訪問(佐賀～7日)  
7日(日) キリストの聖体 教区の青少年委員会(大名町教会)  
8日(火) 教区経済問題評議会  
9日(水) 福岡カトリック学園・理事会  
10日(木) カタラント再開のミサ(大名町教会)  
11日(金) イエスのみ心 幼児教育連盟  
12日(土) 年間第11主日 本郷教会司牧訪問  
教区創立100周年委員会(大名町教会)  
13日(日) 司教総会(東京～19日)  
14日(月) 北九州・幼児教育連盟研修会  
15日(火) 年間第12主日 大牟田教会司牧訪問  
16日(水) 福岡教区司祭黙想会(旧カトリック神学院～26日)  
17日(木) 洗礼者聖ヨハネの誕生  
18日(金) 年間第13主日 聖ペトロ使徒座への献金  
小郡教会司牧訪問  
福岡教区宣教司牧評議会(大名町教会)  
19日(土) 聖ペトロ 聖パウロ使徒  
20日(日) 教区司教顧問会(決算)  
【7月】  
1日(水) 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者  
日本カトリック神学院・研修会(東京)  
2日(木) 年間第14主日 二日市教会司牧訪問

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記QRコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。



ようこそ福岡教区へ!  
フェルッチョ・ブランビッラスカ神父  
(ミラノ外国宣教会)

全文と日本語訳は右記から→



My name is Ferruccio Brambillasca, and I was born in Monza, a city near Milan. At the age of eighteen, I entered the seminary of the Pontifical Institute for Foreign Missions (PIME), as I desired to become a missionary priest after hearing the life testimonies of several PIME missionaries—particularly that of a missionary from my own city who lived in Myanmar for more than sixty years.

At twenty-four, Cardinal Carlo Maria Martini ordained me a priest in the Cathedral of Milan. My wish was to depart immediately for the mission in Japan; however, my superiors asked me to serve as a formator in our seminaries—first in Aversa, at the PIME minor seminary, and later in Pune, India, at the PIME major seminary.

During these years dedicated to formation, I had the opportunity and time to study, in Italian, two Japanese authors, Shusaku Endo and Kazoh Kitamori. Through this, my interest in Japan grew even stronger.

Finally, in 1998, I arrived in Japan for the first time. Having never studied the Japanese language before my arrival, I dedicated two years to studying it. After this period, I was assigned to the parish of Tachikawa, in the Diocese of Tokyo, as an assistant priest.

After two years in Tachikawa, I became parish priest of Choshi and later of Seijo, both within the Diocese of Tokyo.

In 2008, I had to leave pastoral ministry after being elected Regional Superior of PIME in Japan. In 2013, I left Japan after being elected Superior General of PIME in Rome.

I served as Superior General for two terms (twelve years), during which I had the opportunity to visit all our missions throughout the world. It was a beautiful and enriching experience.

In November 2025, after twelve years, I returned to Japan and was assigned to the Diocese of Fukuoka. I spent a few months at the cathedral in Fukuoka to “refresh” my Japanese, which I had not used for twelve years. I have now been in Kumamoto Prefecture for a few weeks, serving as parish priest of the churches of Yatsushiro and Minamata. (...continued)



教皇レオ十四世と握手を交わすフェルッチョ神父(右)

編集後記

教区創立100周年企画のスタンプリームも、残すところあと約1年になりました。みなさま、巡礼指定教会巡りのスタンプ集めは順調ですか。先日、80代の母と2人、西新教会のバス巡礼旅行に参加しました。十時仲治神父様のもと、指定教会である久留米教会と聖マリア病院の「雪の聖堂」を

訪ねる旅です。仕事で何度か訪れながら押し忘れていた念願のスタンプを、今回はしっかりと押せ、ミサにも母娘でゆつくりあずかる喜びを味わいました。久留米教会では青木悟神父様から、教会の紹介パンフレットには載っていない貴重な歴史を伺い、先人たちの熱い信仰に深い感銘を覚えたものです。また、平日の訪問にもかかわらず、信徒のみならず、お菓子による温かいおもてなしの心。車内では100年の思い出、特に2人の教皇やマザー・テレサの来日に話が弾み、所属信徒でもなく、足元もおぼつかない母にも温かく細やかな配慮をいただき、天の父でつながる「教会家族」の幸せをかみしめた一日になりました。(W)

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談  
セクシュアル・ハラスメント相談窓口  
電話 080-2694-4182  
受付時間 月～金(祝日を除く)  
10:00～12:00 13:00～16:00